



川口けいすけのグリーンズ川越

編集/発行 川越市議会議員 川口 啓介

〒350-8601 川越市元町1-3-1 川越市役所6F 政晴会 議員控え室

TEL 080-3025-5776 FAX 049-227-3810 E-mail kawaguchi-keisuke@outlook.com

81
SINCE 2003

4月の市議会議員選挙では、改めて4年の任期を頂きました。4期目も初心を忘れず活動して参ります。今後とも、宜しくお願い致します。



低投票率について考える



有権者の意識による問題の中で、特に若い人の中で多く聞く「投票は義務なのか」。答えは「否」、義務ではありません。しかし、議会制民主主義の日本において、国民の意志を政治に反映させる最も有効な機会が投票による選挙への参加です。義務でない以上、棄権することも個人の自由という考え方もあるのかもしれませんが、棄権するという事は、選挙結果を無条件に受け入れる結果責任を伴うこととなります。

「誰がやっても変わらない」これもよく聞く意見ですが、私から見れば誰がやるかで「大きく変わっている」と思います。「政治不信」という言葉もよく聞く言葉です。政治に対する又は、政治家に対する不信感は私自身も持っています。この気持ちが議員を目指そうと思った理由とさえ言えます。しかし、あきらめていても変わる事はありません。意思のある投票で有権者の声を届けましょう。

もう一つ、選挙制度の問題も低投票率と大きく関わっています。ここで、常に90%前後の投票率を誇るスウェーデンの選挙制度を見てみます。選挙は比例代表制度で、一院制を採用し、国会、県、そして市議会選挙が同日に開催されます。一般的に、比例代表制度は単独政権が過半数を占める選挙区制度よりも高い投票率になると言われています。また一院制の議会のほうが、二院制などの議会が複数ある制度よりも投票率が高くなると言われています。スウェーデンでは選挙は頻繁に実施されず、4年に一度開催されるだけです。選挙が多くあると、投票者は参加するのに疲れてしまうのではないのでしょうか。また投票は簡単でなくてははいけません。スウェーデンでは、投票がとても簡単です。期日前投票も実施されます。どこで投票するかも自分で

選ぶことが可能です。また、スウェーデンの学校は、若者を責任のある市民に育てることを目標にしており、選挙は学校の学習指導要領に自然に組み込まれています。教師は、生徒と様々な政治の視点や考え方について議論し、生徒は学校で自分の考え方を議論するために、自分で情報を集めるように促されます。選挙のある年は、多くの学校が「学校選挙」を開催し、そこに政党を招待し、学校で政党の情報提供をします。公職選挙法で多くの縛りがある日本とは大きく異なる部分です。

公職選挙法の定めの中で、日本が他の国々と大きく異なるのが、選挙に立候補する時の供託金（選挙に立候補する者が届け出の際に納入しなくてはならない一定の金額）です。供託金制度があるのはOECDに加盟する35カ国のうち13カ国のみで、そのほとんどは10万円未満です。日本は衆院の小選挙区で300万円、比例代表で600万円です。他の国々に比べ圧倒的に高い供託金が、多くの有権者の参政権の行使を阻み、普通の人が出られず、2世3世、定年組、経営者など候補者の多様性を阻害しています。有権者にとって身近に感じられる候補がいなければ当然、投票率も低くなります。

他にも、他国では一般的な選挙運動である個別訪問。有権者を訪ね、顔を突き合わせて政策や考え方を説明し、有権者の疑問にも答えるやり取りが日本では禁止されています。候補者や政党の考え方等が分からないと言われる要因の一つです。さらに、選挙カーからの名前の連呼ですが、これも実は公職選挙法により、選挙カーを走らせている時に許されているのが連呼行為のみなのです。実に不可解な規制だと思いませんか？間違いなく投票率の低下に一役買っています。

お任せ民主主義からの脱却を!

